

産業構造審議会産業技術環境分科会

第16回研究開発・イノベーション小委員会（議事要旨）議事要旨

■日時：2020年4月7日（火）～4月9日（木）

■書面審議

■出席者：五神委員長、石戸委員、江藤委員、江戸川委員、梶原委員、
小柴委員、小松委員、佐々木委員、塩瀬委員、高橋委員、玉城委員、
藤井委員、藤田委員、水落委員、吉村委員、渡部委員

■議題

産業技術環境分科会研究開発・イノベーション小委員会の下部組織として若手ワーキンググループを設置することについて

■議事概要

議題について書面審議を行った結果、賛成16、反対0により、若手ワーキンググループの設置が決議された。

なお、委員から以下の意見があった。

○次の30年を担う若手ワーキンググループを作るのは賛成だが、枠組みや支援制度などを議論していても何も生まれない。若手にとって重要なのは「まず、動くこと」OODAの世界を体験することだと思う。何らかの形で実践を試みることができるとよい。

○異なる世代の橋渡しができるように努めたい。

○条件付きで賛成する。メンバーに、女性が3割しかいない。若手であれば、5割を目指すべき。その年代であれば、他の年代より優秀な人は見つけやすいはずである。また、MITの研究でも、集団的知性（Collective Intelligence）は女性の数が多いほど高まるというデータを出している。未来を本気で見据えるものを目指しているのであれば、この条件は必ず満たすべき。しかし、今年度において今からのメンバー追加は難しいと思われるので、次年度は5割を達成するという条件付きでお願いする。

- 「大学と企業の連携」を議論する際、企業業種や技術分野以外にも、年代により「大学と企業」の距離感（の有無、大きさ）の認識が大きく異なることを感じる。その意味で、今回の WG 設置は賛成であり、議論に期待。

議論の前提の一つに、今般の状況下でテレワークが急速に浸透することもあり、今後は益々 ICT を一つの技術分野ではなく、研究開発のインフラの一要素として捉える、という点がある。網羅的な議論より、WG メンバー各位の実体験に基づく問題意識や課題を基盤とし、議論を戦わすと良い。

お問合せ先

産業技術環境局 総務課

電話：03-3501-1773

FAX：03-3501-7908